

東北森林管理局 森林技術・支援センター たより

〒037-0305

青森県北津軽郡中泊町中里亀山540-8

TEL : 0173-57-2001

FAX : 0173-57-4929

E-mail : t_gijutu@rinya.maff.go.jp

『あすなろ自遊モリ森』で森林環境教育を実施

平成24年度から中泊町立中里中学校と金木支署で「遊々の森」の協定を締結しており、それに基づき、毎年金木支署およびセンター共催で森林教室を行っています。

今年も6月1日（月）に中里中学校の1年生59名を対象に、森林教室および空中取り木作製体験を行いました。取り木とは植物の人工的繁殖方法の一つで下枝を押さえつけ土中に埋めるなどして発根させるものです。その取り木部分を地中に埋めずに発根させるものが空中取り木です。

当日は中学校校長、金木支署長、センター所長からの挨拶で森林教室が始まりました。

まず体育館で森林の役割・空中取り木等についての学習を行い、空中取り木作業の実演を生徒の目の前で行いました。実演後に現地で元気に作業するため「やる気、元気、取り木」のかけ声で生徒の士気を高めました。かけ声後、生徒の緊張もほぐれ終始和やかな雰囲気が進みました。その後、輪尺、測竿等の道具を使用したり、樹木の種子・木材・木の香り・顕微鏡でみたり、触ったり、嗅いだり等五感で感じてもらったり、空中取り木作業を実際に行ったりしました。

生徒からは普段体験できないようなことのように、目を輝かせながら楽しんでいました。



体育館での事前学習の様子



森林教室の様子



空中取り木作成中



中学生が作った
取り木だよ！

午後からは今泉山国有林において、空中取り木体験を行いました。

まず現地で安全に関する注意事項等を行い、それぞれの班毎に空中取り木作業を始めました。

生徒達は使い慣れないカッターを使い、悪戦苦闘しながら職員の手助けのもと作業を行っていました。予定どおり空中取り木は各自一本ずつ作製することができました。

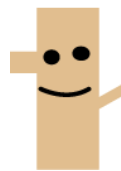
生徒からは空中取り木に使用する「ミズゴケが気持ちよかった」等の感想が聞かれました。作業終了後は生徒代表からお礼の言葉があり、森林教室を終了しました。

10月には今回作製した空中取り木を生徒が植栽体験する予定です。

森林技術普及の窓

～森林技術普及の現状の取り組み～

森林技術普及専門官（盛岡署駐在）



森林・林業の再生に向けた取組実現のため、施業の集約化、路網の整備、必要な人材育成を軸とした各種施策を現場レベルで実行していくためには、広域的・長期的視点に立った森林づくりと林業・木材産業の活性化に向けたビジョンを描き、その実現に向け、関係者の合意形成を図りながら、各取組を進めるためには技術者が必要です。

このため、講義・演習の座学による「中央研修」と各森林管理局の現地実習による「ブロック研修」をセットにして、専門的な知識と技術を身につけることとしています。

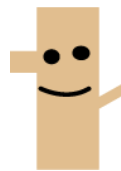
中央研修は6月16日から7月31日まで5回に分けて行われ、東北では9月15～18日にブロック研修が予定されていますが、森づくりの構想や資源循環利用構想の検討や現地実習を円滑に進めるため、東北森林管理局担当者と合同で盛岡署管内で現地の林分調査等の事前準備を6月10～11日、6月30日に行いました。

また、併せて、東北では「トータルコスト低減に向けた路網と作業システムの改善」をテーマにした実践研修が岩手県八幡平市で10月14～15日に開催予定しており、地域特性等を踏まえた課題に取り組んでいきます。



林分調査の様子

ヒバ空中取り木研修会を開催しました！



良質なヒバの大径材が減少し、ヒバ材の供給量も減少している中、東北局では平成26年度より「ヒバ林の復元に向けた取組」として、主伐期を迎えたスギ・カラマツ等の人工林におけるヒバ稚幼樹を活用した更新を進めています。

当センターでも、ヒバ植栽試験における植栽後の大苗の生長が良い傾向を示しているほか、技術開発課題として「空中取り木による青森ヒバ苗木の生産の試み」に取り組み、ヒバ大苗が容易に採取できる手法を地元中学生等に指導し、自分が製作したヒバ大苗を現地に植栽するなどヒバ植栽の拡大に取り組んでいます。

また、その他住民からのヒバの植栽要望に答え、6月19日にヒバ空中取り木研修会を開催し、ヒバ生育状況や空中取り木の手法等を説明し、現地でヒバの枝に製作してみました。秋頃には、ヒバ大苗が出来ることを想像し、100年後のヒバ育林を念願しながら、研修会を終えました。

センターでは、引き続き研修会等の要望に応じていきますので、お問合わせ下さい。



取り木製作中

低密度植栽試験経過報告



平成26年度から技術開発課題として低密度植栽試験を行っています。

この試験は林業の低コスト化に向けた技術開発を推進する中で、低密度植栽は苗木や植栽費用だけでなく、保育間伐の省略等、全般的な費用の縮減につながるが見込まれます。

また、育成過程において一定程度の広葉樹の侵入も想定されることから、生物多様性の確保にも効果があると思われます。このため、植栽木の生存率や成長・材質への影響、生物多様性の程度を明らかにするため、スギ・カラマツの低密度植栽を検証しています。

今年度の進捗状況についてお知らせします。今年度新たに試験地が2カ所増え、8カ所で低密度植栽試験を実施しています。2年目の箇所については雪害・植栽木成長調査を終え、7月からは筋刈り功程調査を実施する予定です。一方、初年度の箇所については春植え箇所は試験地設定・地持ち・植付調査が終わり、7月以降は植生調査や活着調査を実施する予定です。

編集後記



今年も既に半分が過ぎ、7月も半ば…中泊も最近暑い日が続く、梅雨明けも間近といった感じです。

紙面でも紹介した空中取り木研修会でのこと。参加者のKさん、取り木作製の作業が面白かった(?)ようで、初めてとは思えない手さばきで次から次へと作業を進め、予定していた取り木をあっという間に作っていました。「貴重な体験が出来た」と、嬉しい感想も。

今回が初開催でしたが、今後も要望が有り次第開催予定ですので興味のある方は是非お問い合わせ下さい！

☆次号より森林技術専門官による新企画、生物についてのコラムがスタート予定です。ご期待下さい！